

会 議 録

会 議 の 名 称	平成 29 年度第 1 回 弘前市認知症初期集中支援チーム検討委員会
開 催 年 月 日	平成 2 9 年 6 月 2 7 日 (火)
開 始 ・ 終 了 時 刻	1 3 時 0 0 分 から 1 3 時 4 5 分 まで
開 催 場 所	弘前市役所新館 6 階会議室
議 長 等 の 氏 名	葛西 久志
出 席 者	委員長 葛西 久志 副委員長 須藤 武行 委員 中畑 範彦 委員 相馬 渉 委員 下田 肇 委員 鶴見 智之 委員 相馬 崇治 委員 東谷 康生 委員 渡部 郁子 委員 斎藤 義弘 委員 阿部 順
欠 席 者	委員 畑中 光昭 委員 菊地 昭二
オ ブ ザ ー バ ー	弘前警察署生活安全課生活安全係長 佐藤 将傑
事 務 局 職 員 の 職 氏 名	健康福祉部長 赤石 仁 健康福祉部理事 須郷 雅憲 介護福祉課長 三上 誠 介護福祉課長補佐兼自立・包括支援係長 齊藤 隆之 介護福祉課主査 土岐 暖子 介護福祉課保健師 三上 佳恵
会 議 の 議 題	(1) 弘前市認知症初期集中支援チームについて (2) 弘前市認知症初期集中支援チーム検討委員会について (3) 今後の予定
会 議 結 果	下記会議録のとおり
会 議 資 料 の 名 称	資料 1 認知症施策推進総合戦略 (新オレンジプラン) ～認知症高齢者等にやさしい地域づくりに向けて～(概要) 資料 2 弘前市認知症初期集中支援推進事業 概念図(案) 資料 3 弘前市認知症初期集中支援チーム設置(案) 資料 4 弘前市認知症初期集中支援チーム検討委員会 スケジュール(案) 参考資料 ・弘前市認知症初期集中支援チーム検討委員会運営規則 ・弘前市認知症初期集中推進事業実施要綱 ・認知症高齢者の日常生活自立度

<p>会議内容</p> <p>( 発言者、 発言内容、 審議経過、 結論等 )</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 開会</li> <li>2 委嘱状交付</li> <li>3 市長挨拶</li> <li>4 委員長及び副委員長の選任</li> <li>5 案件</li> <li>6 その他</li> <li>7 閉会</li> </ol>
	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 開会</li> <li>2. 委嘱状交付</li> <li>3. 市長挨拶 挨拶終了後、市長退席。</li> <li>4. 委員長及び副委員長の選任 委員の互選により、指名推薦にて委員長は葛西委員、副委員長には須藤委員が推薦され、異議なく承認された。</li> <li>5. 案件 (1) 弘前市認知症初期集中支援チーム設置について (事務局より資料1、2、3について説明) 【以下 主な質疑応答】 (東谷委員) 資料3の「支援ケース見込み数 年83名」もちろん見込み数ではあるが、こちらの右側の表の「地域包括支援センター訪問対象者把握数」65歳以上一番下の83人という数字が反映されているという解釈でいいのでしょうか。認知症初期集中支援チーム、40～64歳が0かもしれませんが、若い若年性の方も利用されるのかなと思い、少し気になったことでした。 (介護福祉課) チーム構成の支援ケース見込み数83人については、右側の表の「地域包括支援センター訪問対象者把握数の83名」と同じという意味合いです。 40～64歳が0件であることについては、実際にどのくらいのケースを包括のほうで抱えているかということで、各包括にアンケートを取った結果であり、ケースについては把握しきれていない方もいると思われます。今後ケースとして発生することも考えられると思います。 (議長)</li> </ol>

今後数が増えていけば、現在1箇所設置の計画ですが、どうにかしていきたいということも書かれていましたので、状況を見ながら検討していければと思います。

ほかにご意見ご質問いかがでしょうか。

(阿部委員)

スタッフとして、第三地域包括支援センターが選任されているのですけれども、これには特別、第三を選んだという特別な理由があるのかお尋ねします。

(議長)

第三包括を指名した理由といたしますか、根拠というのですか。

(介護福祉課)

第三地域包括支援センターで抱えている、7つの委託包括の中で抱えているケース数が多いということ。また、市内中心部であるということと、またサポート医として専門医をお願いいたします愛成会病院さんと連携が取りやすい位置関係でもあるということから、まず初めは第三地域包括支援センターに委託ということを考えさせていただきました。

(議長)

他にご意見ご質問いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは(2)弘前市認知症初期集中支援チーム検討委員会について事務局から説明をお願いします。

(2) 弘前市認知症初期集中支援チーム検討委員会について

(事務局より資料2、3について説明)

(議長)

ありがとうございました。では検討委員会の役割、それから今後の開催会議、また検討内容について、特に認知症ケアパスについても含めて、質問等をお願いします。

資料2の方は基本的には国が示している検討委員会の内容かと思えますし、資料3の裏の方は市の案と関連して、検討委員会の役割等が示されているかと思えます。将来的には、早期診断、早期介入に向けて、いろんな課題が起きてくるかと思えますので、今後チームがうまく動くかどうかを委員会で検討していく、また市の課題について検討していくことが大きな課題かと思えます。同時に市民の方々が一目でわかるような、認知症ケアパスというのを作っていくというような方向での検討もこれから必要だと思えます。できればケアパス見本みたいなものもあれば…今日はいいです。よろしいですか？

(議長)

よろしいですか。今日は初回ですので、次回またじっくりと検討したいと思います。

それでは案件(3)「今後の予定」ということで、事務局のほうからお願いいたします。

(3) 今後の予定

(事務局より資料4について説明)

(議長)

資料4によりまして、今後の検討委員会のスケジュールについて説明いただきました。本当に今はやはり、認知症ケアパスというところについて重点を置いて検討していくことになると思いますが、これまでのスケジュールのところでは質問何かございませんでしょうか。

(議長)

ケアパスについてのこれは、市の方で考えている完成時期というのはどの辺にございますか。

(介護福祉課)

資料4をご覧になっていただきたいと思います。認知症ケアパスの今後の進行状況につきましては、第三回の11月から12月の検討委員会で検討していただいた結果を踏まえまして、12月ケアパス作成を目指しております。最終的には年度末3月には、市内に配布ということをご想定しております。

(議長)

認知症ケアパスの方のスケジュールも入っていましたので、その辺も含めて、委員の皆様の方からご意見ご質問等お願いいたします。

よろしいでしょうか。それではスケジュールを見ますと、8月にまた第二回の会議がありますので、それまでにまた委員の皆様方にいろいろ検討いただいて、その際にまたご質問をお願いしたいと思います。

それでは次に、次第6「その他」に移りたいと思います。全体を通して気になったこととか、質問等ございましたらお願いしたいと思います。いかがでしょうか。

6. その他

(下田委員)

認知症初期集中支援チームが発足して、実際やられていてそ

の中間報告とか色々聞こえてきております。

正直申しまして、初期集中支援チームという名前にふさわしくない業務がいっぱいある、実はですね。一つは認知症であるかどうかの判別をする業務が多すぎて困る。いわゆる精神障害の方も含めて全部相談に来てしまっている。取扱いには非常に苦労しているのがその例です。ここであんまり精神障害を含めて困難例など協議する時にもう少し、整理してやらないと難しい、という話が一つございます。

話は別ですが、県医師会で認知症のサポート医の担当所管、チーム数やら選任など担当しておりまして、今年県で10名、推薦で派遣することになって、各市町村にバランスよく、こういう支援チームに参画、協力できるような先生にお願いする、ということにしていますので。弘前市内で、このサポート医の現在資格を持っているのは何人いらっしゃるのか。そういう人たちの連携、それから弘前市内のサポート医の先生方と、初期集中支援チームと関連した何か会合的なもの作っていただけないか。一緒になってですね、気軽に協力できるようにしていきたいということをお願いしたいと思います。

それからもう一つは、介護支援専門員の立場から言いますと、ケアマネジャーが結局認定すべきかどうかも含めて相談に乗ると思いますので、そういうことも踏まえて、ケアマネジャーの方との交流をよろしくお願いしたい。

この初期集中支援チームは八戸、五戸など向こうでかなりモデルなど結構うまくやっているとありますが、実態はここに書いてありますように、積極的に家庭訪問していくかどうか、問題になったのです。あくまでも、やはり家族の方の依頼があったり、相談するのを待ちましようということなのです。何でも疑いがあるから行ってみましようという発想でなくて、この辺の中間を上手にしていかないと、非常に家族の方に、困るようなことがあると聞いておりますので、そのような人に気をつけて、十分にこの目的であり、考え方が理解されるようお願いしたいと思います。

認知症の方の行方不明者とか事故に対してです。どのように発見したらよいか、安全確保のためにはどうすればいいのかというものの会議がありました。極端な意見はGPSをつけるという極端な意見ですが、要するに安全のためには居場所がすぐわかるような、強制的にそういう何か身につけさせ、持たせなさいという非常に極端な意見もございますし、しかしそれは人権問題でそういうことはしてはいけないわけですし、そういう対

応についても、考え方をみんな了解できるように、そういうことを初期集中支援チームが話し合いできるようにお願いしたいと思います。よろしくお願いします。

(議長)

ありがとうございます。下田委員の方からこういう風な情報があると聞くことができましたので、市の方としても、認知症サポート医の数ですとか、または連携というところの、情報が入っているかもしれませんけども、先般6月18日の新聞の記事にも、認知症サポートの数の増員ということで、かなり大きく出ていましたけども、それ含めて連携していくこと、ケアマネジャーとの交流も含めてやっていけたらと思って、よろしくお願いします。

その他ご意見ありますでしょうか。

(相馬委員)

薬剤師会の方でも昨年から、薬剤師認知症対応向上研修会をやってまして、認知症に対応できる薬剤師の養成をやってました。その中である程度、認知症ケアパスの概略みたいなのこの説明あったのですが、弘前では新たな0から作るのですか。もともとけっこう出ていると思うのですがどのような感じでしょうか。

(議長)

ケアパスは1から作るか、それともなにかしらモデルがあってそれに基づいて作っていくのか。

(介護福祉課)

ケアパスの作成については、スケジュールにもありましたが、現在各包括に配置されている、認知症地域支援推進員とともに、素案を作成中です。いろんな自治体のものを参考に、また弘前市で既に活用している高齢者ガイドブック等を参考にしながら作成中でしたので、いろんなところのものを参考にしながらというところでした。

(議長)

他にいかがでしょうか。他にないようですので、次第6を終わらせていただきます。

案件終了

※相馬委員より情報提供

チラシ「薬剤師のお試し訪問」の事業が青森県薬剤師会、青森県からの委託事業で、平成29年の薬剤師による訪問服薬支

	<p>援体制強化事業という予算が青森県薬剤師会におりました。</p> <p>内容は、薬剤師の私たちが服薬療養指導で患者さんの家にお薬訪問して、実際今回の認知症の話結構つながるんですけど、すごく残薬があるのです。日本全国で500億円の薬が飲まれていないという実態もありまして、薬剤師がこのチラシにありますように、薬が管理できていない、薬が余っているとみなされてしまうという状況を実際窓口で業務して、患者さんに聞いたら、飲んでる、飲んでるというのです。そこで実際家に行ってみると、すごい、いろんなところから薬が出てくるので、今回この事業が7月から12月まで、薬剤師が無料で患者さんの家に行き、いろんなフローチャートがありまして、県の薬剤師会のホームページに7月になりましたら順次ダウンロードできるようになるのですが、ケアマネさんとか訪問看護師さんが、実際お宅に行ってみてすごく困っているという事例がありましたら、お薬を出している薬局に言ってください。そうするとそこで薬剤師が訪問しまして、主治医にきちんと訪問するという患者さんの同意を得てから、報告書とか出してやる事業になっています。これらのことやることによって、我々がやっているのは薬をカレンダーにセットしたり、服用日を書くことによって改善する方もいますし、やはり今日の話の認知症の方とかは結構多いです。ぜひ困っているとかありましたら、この事業活用いただければと思いますので、参考までによろしく願います。</p> <p>7. 閉会</p> <p>次回は、8月23日開催予定。</p>
<p>その他必要事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会議は公開である。</li> <li>・傍聴者数 1名</li> </ul>